

令和6年度 山形県立博物館 特別展

海に入るまで  
濁らざりけり  
「母なる川」最上川

令和6年 6月1日(土)～8月18日(日)

9:00～16:30(入館は16:00まで)

休館日 / 月曜日 ※ただし7月15日(月)、8月12日(月)は開館、  
翌7月16日、8月13日は休館

入館料 / 大人300円(20名以上の団体150円)  
/ 学生150円(20名以上の団体70円)

※高校生以下は無料。障がい者とその付添いの方は無料。

「学生」には専門学校生等を含む。

山形県立博物館

〒990-0826 山形県山形市霞城町1番8号 Tel 023-645-1111  
Fax 023-645-1112 URL <https://www.yamagata-museum.jp/>

主催 / 山形県立博物館

協力 / 大石町立歴史民俗資料館、大江町教育委員会、大郷郷土研究会、酒田市文化資料館光丘文庫、  
(公財)致道博物館、鶴岡市郷土資料館、長井市、(公財)宮坂考古館、(株)最上川三難所船下り、  
山形県郷土館「文翔館」、山形大学附属博物館、山形謄写印刷資料館、米沢市教育委員会 (五十音順)



# 広き野を ながれゆけども 最上川 うみに入るまで にごらざりけり

昭和天皇が東宮でおられた大正14(1925)年、山形県に行啓された時にご覧になった最上川の様子を詠まれたこの歌は、現在「山形県民の歌」として親しまれています。

東宮行啓からおよそ100年。今回、江戸時代の川絵図や最上川に係る資料から、最上川流域に残る歴史的文化や流域に暮らす人々の生活に注目し、最上川が持つ魅力にせまります。



御詠歌歌碑(山形県郷土館文翔館)



歌碑拓本(本館蔵)

## 展示構成

- 《第1部》最上川を詠む ～文学からたどる～ 《第2部》最上川を描く ～川絵図からたどる～
- 《第3部》最上川に生きる ～人々の暮らしと最上川～

山形県指定文化財の「羽州川通絵図(本館所蔵)」「松川舟運図屏風((公財)宮坂考古館所蔵)」をはじめ、最上川に関連する資料を数多く展示しています。



中心となる資料…羽州川通絵図(山形県指定文化財、本館蔵) ※右は拡大



松川舟運図屏風(右隻) ※右は拡大



## 記念講演会 (各回とも13:30~15:30)

- ①6月22日(土)  
「最上川舟運で行き交うモノと文化・  
くらしー民俗学の観点からー」  
菊地 和博 氏  
(東北文教大学人間科学部特任教授)



小鶴船模型(本館蔵)

- ②7月27日(土)  
「最上川水運と河川絵図の特色」  
小野寺 淳 氏(放送大学茨城学習センター所長、茨城大学名誉教授)  
※事前申込制、ギャラリートークあり、入館料が必要



最上川通絵図(左:船町本、大郷郷土研究会蔵 右:大石田本、本館蔵)

## 記念イベント

- 8月4日(日) 紅花や青芋を使ったアクセサリー作り  
(協力:山形県立村山産業高等学校 みどり活用科草花班)  
※申し込み不要、入館料が必要

## 展示解説会 (各回とも13:00~13:30)

- ①6月1日(土) ②7月6日(土) ③8月3日(土)  
※申し込み不要、入館料が必要

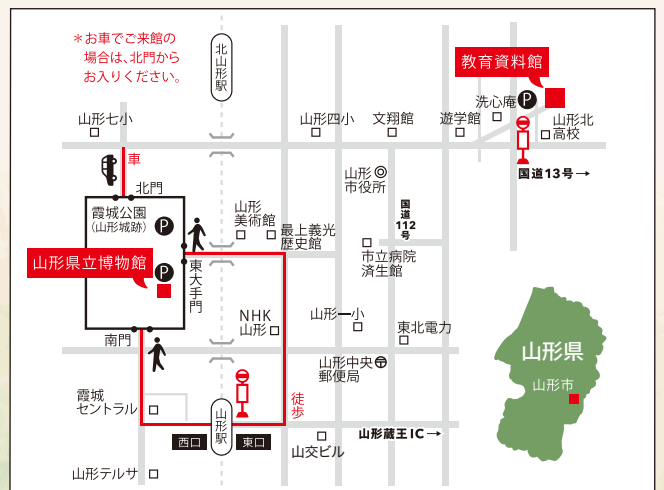
## 舟でめぐる最上川三難所

村山市にある最上川の「3つの難所」。船下りの様子を映像で紹介します。(撮影協力:株最上川三難所船下り)



## デジタルパネル「空からながめる最上川」

現在の航空写真と  
むかしの川絵図を、  
画面にタッチして比べてみよう。  
(写真はイメージです)



- ◆徒歩: JR山形駅西口より約10分
- ◆車: 山形道山形蔵王ICより5km(約20分)、東北中央道山形中央ICより3km(約10分)  
※正面駐車場10台(無料)

「記念講演会」は事前申込み制となります。  
詳しくは当館ホームページをご確認ください。